

## 産業を守る「鍵」

菰野町立菰野中学校 3年 中川 綾乃

ガシャンガシャン、ガララ。秋の田に響き渡るコンバインの音。丹精込めて育てた稲が収穫される。ハンドルを握るのは、祖父だ。祖父はコンバインをはじめ、トラクター、田植え機などたくさんの農耕作業用自動車を所有している。自動車の維持費は高いと聞くが、生活は成り立つのか。祖父に尋ねてみたところ、農耕作業用自動車は税制上の優遇措置がとられているようだ。

自動車を利用するには、道路や信号機、トンネルや高速道路など様々な社会整備が必要だ。それゆえに多種多様な税が存在している。例えば、環境性能割。これは二〇一九年から自動車取得税に代わり導入された税で、自動車を購入する際や、車検の度に納める。環境負荷の小さい車両の普及を目的としており、燃費性能の優れた自動車ほど税が軽減される。では、農耕作業用自動車の環境性能割はどのくらいなのか。私は、そのような自動車は大型で排気量が多いと考えていたため、環境性能割が高くなると思っていた。しかし実際は非課税であると知り、驚いた。

また、自動車を所有している人は、毎年自動車税を納めることが義務付けられている。原則、自家用車の自動車税は排気量によって納める額が変化する。例えば、排気量が一〇〇〇cc超一五〇〇cc以下の自動車の場合は、毎年三〇五〇〇円。軽自動車の場合は軽自動車税が適用され、毎年一〇八〇〇円。そして農耕作業用自動車はというと、毎年二四〇〇円。比較してみると、農耕作業用自動車は自動車税において、かなり優遇されていることがわかる。

さらに、農耕作業用自動車に使用する軽油は軽油引取税が免税になる。軽油には一リットルあたり三二. 一円の税金がかかっているが、手続きをすれば免税価格で購入することができる。

日本政府は二〇三〇年までに食料自給率を四五パーセントとする目標を掲げており、目標達成のため農業経営の安定、発展を後押しする税制措置がとられている。このように、日本の農業は国に保護されている。今後も農業を守っていくためには、課税や免税の運用の仕方に工夫を施す必要がある。そうすることで、昨今の農業従事者の減少や、耕作放棄地の増加などの問題解決にも繋がるだろう。

農業の他にも、保護を必要とする産業はある。あらゆる産業が衰退していく原因の一つとして、収益の低下による担い手の減少が挙げられる。そこで、税制上の優遇措置をとることで収益が向上し、担い手の減少を防ぎ、結果的に産業を守ることに繋がる。つまり、正の循環が生まれるのである。

税制措置は産業を守る「鍵」となる。これからの日本を担う私たちは、税について学び、日本の産業をどのように守っていくべきか考えることが大切だと思う。